

情勢報告

収量アップへの第一歩は環境測定！ けれど正確に測定できよう？



環境測定装置の校正方法を指導する
普及指導員（環境制御普及推進担当）

28園芸年度が始まって2ヵ月が過ぎ、管内では環境制御による収量・品質アップを目指す機運が高まっています。その第一歩として、植物を取り巻く環境を正確に測定することが重要です。しかし、現状ではほとんどの環境測定装置のCO₂センサーはハウス内での経時変化により基準値とのズレが生じています。

そこで、農業改良普及課はJ Aと協力し、10月から管内の各地区（現在の環境測定装置導入農家71戸）を個別巡回し、CO₂センサーの校正方法や換気量が多い時期のCO₂施用方法について集中指導しています。

今後は、厳寒期のCO₂施用方法や植物の生育に応じた平均温度の管理等について現地検討会や個別巡回で周知を図り、実践を呼びかけます。

「生育調査は環境制御技術の第一歩！」 生育調査の勉強会を開催（安芸市赤野）



講習会の様子

赤野ナス部会は、10月5日に環境制御技術勉強会を開催しました。ナスの生育調査方法が主体のため、環境制御装置を設置している赤野地区のほ場に、環境制御機器を導入している生産者を含む13人が集まりました。

農業改良普及課は、生育調査の目的と摘心前の調査方法、マニュアルを基にした樹勢バランスを保つための温度管理等の説明を実践を交えながら行いました。

生産者からは「環境制御技術と聞くと抵抗感があつたが、生育調査は普段自分達が見ている樹の姿を数値として記録するだけなのでできるかもしれない」との感想が聞かれ、環境制御への関心を高めることができました。

農業改良普及課は、今後もJ Aと協力して樹勢バランスを保つための温度管理等の徹底等、環境制御技術の普及に取り組みます。

今年も品質の良いナスを！芸西で「土佐鷹」の栽培講習会を開催



土佐鷹の栽培管理について聞き入る
生産者たち！

9月29日に、土佐鷹生産者を対象にした栽培講習会、現地検討会を芸西地区で実施しました。芸西地区は、19戸3.7haで土佐鷹が栽培されています。土佐鷹は、栽培初期の肥培管理や整枝摘葉管理を適切に行うことで栽培期間を通じて高収量・高品質が確保できることから、この時期に初期管理に関する栽培講習、現地検討会を行いました。今年は、初期生育が旺盛で生産者は草勢を落ち着かせる管理を行っていました。

農業改良普及課は、今後もJ A営農指導課と協力して栽培指導を継続することで、土佐鷹生産者の収量確保と高知産ナスの品質向上を目指していきます。

情勢報告

芸東集出荷場園芸研究会発足へ～室戸市内 3 集出荷場統合～



芸東集出荷場園芸研究会設立総会

室戸市の室戸、吉良川、羽根集出荷場が統廃合し、芸東集出荷場が発足したことを受けて、10月2日に羽根園芸研究会、10月9日に吉良川支所品目研究会の解散総会が行われました。

農業改良普及課室戸支所は農家と意見交換し、今後の研究会活動の希望等について情報収集を行いました。また、27園芸年度の活動総括後、引き続き10月20日から始まる芸東集出荷場園芸研究会の活動に参加することを確かめました。

室戸支所では今後も、芸東集出荷場園芸研究会の各品目部会の活動が活性化し、課題が解決されるよう協力していきます。

ユズの収穫が始まります！ J A土佐あき柚子部畑山支部で目慣らし会を開催



出荷規格の目合わせをする生産者

10月14日にJ A土佐あき柚子部畑山支部で出荷目慣らし会が開催されました。目慣らし会は安芸市内の3会場で実施され、約120人が参加しました。

農業改良普及課は、今年のユズの作柄や収穫前後の栽培管理（薬剤防除、肥培管理、適期収穫など）について資料を用いて説明しました。生産者からは、「肥培管理の重要性が分かった」「今年は取り遅れないように計画的に収穫する」等の声が聞かれました。また、出荷規格に沿った出荷に努めようと、出荷サンプルをしっかりと確認していました。

農業改良普及課は、今後もJ Aと連携し、ユズの収量・品質向上と活発な部会活動ができるように支援します。

飼料用米専用品種の導入に向けて



収穫直前の‘夢あおば’ほ場を見学

9月25日にJ A土佐あき稲作部会野根支部が香南市で飼料用米専用品種について視察研修を行い、生産者10人が参加しました。農業改良普及課は、産地に専用品種が導入されていないため、部会の総会で専用品種の講習会と視察の提案を行い、部会からの要請を受けて視察を計画しました。

視察では、J Aとさかみの担当者から専用品種の導入について説明を受け、収穫直前の‘夢あおば’のは場を見学しました。生産者からは「籾が大きくて収量が多そう」「来年から導入したい」等の声が聞かれました。

今後は、専用品種の種籾の入手や育苗状況について確認し、部会に情報提供を行い、産地への導入を推進していきます。

情勢報告

今作も新規就農者の早期経営安定に向けて一丸となって取り組むぞ！



生産者とJA営農、振興センターとの目標設定打合せ 「目標収量はどれくらいにする？」

管内の施設ナス栽培には、28園芸年度に新規就農者が新たに2人加わり、就農3年までの就農支援対象者が計7人になりました。関係機関ではこれらの方の経営安定に向けて一丸となって総括的な支援に取り組んでいます。7～10月にかけてJA営農、振興センター担い手担当及び栽培担当が連携して対象者全員に個人面談を行い、今年の栽培上の目標設定を行いました。今後は設定目標に対する達成度や課題整理を中間・最終面談で行う予定です。また、栽培指導については栽培担当者が月2回以上ほ場を訪問し、病虫害防除や樹勢管理等を助言・指導していきます。

JA土佐あきと連携して推進！集落営農連絡会を開催



安芸地域での集落営農の推進について協議

10月16日にJA土佐あき本所会議室で、JA土佐あきと農業改良普及課の7人が集まり、安芸地域における集落営農の推進について第2回連絡会を開催しました。今年度からの取組である、集落営農の組織化、法人化に向けた「集落営農塾」の内容等について協議し、今後は役割分担を決めて研修会の周知等に取り組むことが決まりました。

意見交換では、新規設立が見込まれる集落の情報共有や、安芸市、芸西村の水田を守る仕組みについて協議し、今後も定期的に連絡会を開催して情報共有をしていく他、JA土佐あき各支所の集落営農担当者6人と連携して活動をしていくことになりました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携して安芸地域の農業・農地を守っていく仕組みづくりとして集落営農の推進に取り組んでいきます。

「てまいら酢」プレミアムに向けて奮闘中～6次産業化支援チーム会～



配合割合の違いを説明する会長

9月14日に東風（こち）グループ（安芸市入河内）6人と農業改良普及課や専門アドバイザー等関係機関が安芸市東川公民館で6次産業化支援チーム会を行いました。支援チームで、現存の合わせ酢の「てまいら酢」を改良し、調味料にこだわった「プレミアムてまいら酢」の商品化を目指しています。

配合割合の異なる3種類の合わせ酢を試食した結果、もう少し柚子酢を効かし、調味配合割合をさらに研究していくことになりました。

今後も、農業改良普及課では、こだわりの調味料の提案等を行い、商品化に向けて支援していきます。